

コロナ禍における「京（みやこ）・地域福祉推進指針」の取組状況について

資料 5

福祉のまちづくり体制整備事業について（令和元年6月～）

地域課題の共有や地域福祉活動の普及啓発等を目的としたシンポジウム等の開催



- 区域の地域課題の共有や地域福祉活動の普及啓発を目的に、区域の実情に応じたテーマを設定し、地域住民等（地域住民、社会福祉関係者、ボランティア等）を対象にしたシンポジウム等を開催

つなげる・広げる

つなげる・広げる

各区地域福祉推進委員会 （事務局：各区社会福祉協議会）

京都市から、福祉のまちづくり体制整備事業を委託

- 平成16年に策定した京・地域福祉推進プラン（第1期目計画）に基づき、各区（11区）に設置
- 高齢者や障害のある方、児童等を対象とした分野別ネットワークの相互連携を深める
- 区域の民生児童委員、学区社会福祉協議会、社会福祉施設の代表者、ボランティア団体、NPO法人、行政（各区役所・支所保健福祉センター等）
※ 各区によって構成は異なる
- 区域における地域課題や活動事例等の把握及び共有、広範な福祉関係者等による総合的な視点からの議論

社会福祉施設や各相談窓口等の社会資源の収集及び発信

地域の社会福祉施設や地域住民等が主体的に取り組んでいる地域の身近な相談窓口等の情報を収集し、福祉総合マップや周知チラシ等の作成等により情報を発信



つなげる・広げる

広げる

つなげる・広げる

地域の思い

地域の課題

地域内での様々な取組

地域内の様々な資源

【福祉のまちづくり体制整備事業 令和3年度実施状況より】

身近な地域課題を把握し、新たな活動の創出へつなげる

<取組例> 【中京区】

- ・障害児者通所施設における地域連携に関するヒアリング調査実施
- ⇒地域支援者からの「コロナ禍で苦しみ障害者施設を支えたいがどこに施設があるのかわからない」という声を委員会で共有
- ⇒施設と地域との取組事例（特に社会福祉法人を有する施設の地域の公益的な取組）可視化してはどうかとの意見
- ⇒「中京区福祉施設と地域のつながり取組事例集」を作成し、ホームページへの掲載や地域関係機関へ配布

【東山区】

- ・就労継続支援事業所の情報交換会にて「コロナで販売の機会が減少している」という課題が出たため、委員会で共有
- ⇒高齢者の居場所運営者から協力の申し出があり、地域支え合い活動創出コーディネーターがサポートし、高齢者の居場所開催日に障害者施設の物販を実施。
- ⇒居場所の参加者と事業所との間で交流が生まれ、さらに別団体が実施するイベントへの出展にもつながった。

社会福祉施設の地域における公益的な取組事例の共有・発信

<取組例> 【北区】

- ・市民が、子どもに多様性を学ばせることができるボランティアを求め、北区ボランティアセンターへ相談
- ⇒コロナ禍でボランティアの受け入れが難しい中、クッキーを製作する障害者福祉事業所が親子ボランティアを受け入れ。
- ⇒利用者と親子の交流につながり、利用者からは笑顔も。
- ⇒委員会内だけでなく、北区障害者支援連絡会等において障害者福祉事業に対し好事例として共有した。

シンポジウムの開催

※オンラインを積極的に活用して開催

<取組例> 【山科区】

- ・「コロナ禍でもつながり続けるために」をテーマにYouTube配信+DVD配布により実施
- ⇒コロナ禍で活動が制限された子ども食堂や健康すこやか学級等の地域活動について、2つの団体や機関が協力して行われている活動をピックアップし紹介。
- ⇒福祉施設等と企業等との連携によって、コロナ禍でも地域活動の継続につながった好事例を把握、発信を行った。

【伏見区】

- ・「これからの地域における公益活動を考える～コロナと共存する支援のかたち～」をテーマに、Zoomでのオンライン配信
- ⇒コロナ禍での社会福祉法人の公益活動の在り方を模索

その他、各区で把握された課題や事例等

<取組例>

- ※ 委員会内での情報共有の他、子どもの居場所情報交換会や社会福祉施設、学区社協等に対するヒアリングを実施。
- ・障害者施設と児童館の合同でイベント開催を計画
- ・プチ農園×福祉
- ・認知症当事者宅のガレージを活用した居場所活動や他の地域活動とのコラボ
- ・地域と施設をつなぐオンラインカフェの実施
- ・社会的孤立の世帯への支援事例の共有と意見交換

コロナ禍における各区地域福祉推進委員会の今後について

1 現状と課題

【現状】

- コロナ禍で地域活動に制限がある中でも、地域では、ウィズコロナを意識し、工夫しながら活動が進められている。各区地域福祉推進委員会では、こうした地域の取組を把握、共有、発信することで、指針に基づく、地域福祉の推進に向けて取り組んでいる。

【見えてきた課題】

- 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、従来どおりの場所、頻度、形式で活動を継続することが困難となり、活動が休止・制限されている地域団体や社会福祉法人の公益的取組等が多い。地域活動の再開に向けて動き始めているが、手探りの状況が続いている。
- 他分野の施設等と連携、交流したいと考えている事業所はあるが、コロナ禍ということもあり具体的な取組につながりにくい。

2 今後の展望

- ★ 引き続き、区地域福祉推進委員会の会議や地域関係機関へのヒアリングを通じて、地域が抱える課題やニーズを把握する。
- ★ 社会福祉法人やNPO、企業等、福祉分野に限らず、地域の様々な団体、多様な主体が連携・協働して進めている、先進的な地域活動の取組事例等を把握、広く共有・発信するとともに、活動の活性化や新たな取組の創出にもつなげていく。